

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>玄関など随所に理念を提示している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>理念の共有ができるよう申し送りノート、情報交換で取り組んでいる。</p>	○	新しい職員に理解してもらえるよう、日々の情報交換を大切にし、ミーティング時には積極的に話し合いを行うよう取り組んでいる。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>ほおずき新聞を自治会の回覧板に載せることで、地域の人々に理解してもらっている。家族の人たちには十分理解していただいている。</p>	○	運営推進会議を通し、婦人会、老人会の協力が得られるよう、事業所の行事への参加、入居者との交流を深められるよう勧めていく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>散歩中の挨拶、近隣のお店の利用などで、会話できるようになっているが、立ち寄ってもらえるまでには至っていない。</p>	○	近隣の小・中学校への働きかけや、気軽に立ち寄ってもらえるよう継続して慰問などをお願いしていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>自治会に加入し、地域の活動(清掃)や祭りの参加はしているが、交流までには至っていない。</p>	○	地域のイベントなどに積極的に参加し、交流の場所をつくっていくよう勧めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域自主防災の避難場所としている。消防署の協力を得て、地域の方と救急救命講習を事業所で実施している。	○	老人会の友愛会(一人暮らしの高齢者訪問)への同行、老人会から事業所へのボランティア訪問など、老人会長と話し合いを進めている。3・4か月に1回、定期的に救急救命講習など実施できるように取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を行うことで、サービスを改善していくことに取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時、意見交換を行うことができる。	○	会議は行っているが、具体的な成果になっていない。サービス向上できるよう、新聞を活かした取り組みを行っていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の問題など相談することがある。後は書類関係の提出時に会うくらいである。	○	市とともにサービスの質の向上に取り組んでいけるよう、行き来する機会をつくり、密な関係を築けるようにしていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関し理解していて、家族からの相談や、個々の必要性を話し合い活用している。	○	職員の理解力を深めるためにも、研修に参加したり学ぶ機会をつくるようにしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度身体拘束委員会を行ったり、業務中に気づいたことを話すようにしている。	○	情報収集を行い勉強会を開き、職員一人ひとりが虐待防止に努めていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時などに、十分な説明はしているが、利用していく上での不安や疑問が出てきた時は、その都度説明し理解、納得していただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者と個々に出かけて、事業所内では言えないこと、意見、要望を聴く機会を設けるようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回暮らしぶりの手紙、新聞を郵送している。また、担当者は健康状態の変化があれば、その都度連絡するようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所玄関に意見箱を設置、重要事項説明書に苦情、意見などの連絡先を明記している。ケアプラン作成時やモニタリングなど、家族の意見を聴くようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングを通して意見交換を行っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>責任者を軸とし、入居者や家族の状況の変化などに対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>特別な理由でない限り離職1か月前より責任者と話し合い、早急な人員確保に努め、ダメージを最小限に防ぐようにしている。</p>	<p>○ 職員が長く勤められるよう運営者として努力していくようにする。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内は全職員が目にするようにして、研修への参加の呼びかけをしている。	○	職員が研修に積極的に参加するよう工夫したり、希望の研修が受けられるようにしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加して情報交換を行っている。	○	研修などで情報交換が行えている事業所への、相互訪問の機会を持ち交流できるようにしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の希望を取り入れ、無理のないシフトを作成している。	○	休憩時間の確保ができるように努めていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務への参加や一緒に食事をしたりして、気がついたことがあればその都度話し合うようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネジャーと面会し困りごとを聞くようにし、本人とも話し合う機会を設けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との関係を密にし、家族との対話を重視して信頼関係を築いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とその家族の要望に対して、できる範囲の支援をし、他のサービス利用が必要であれば、その都度対応できるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイ利用などで少しずつ馴染めるよう、家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的にならず反対の立場も考えサービスを行い、今までの暮らし、言葉や行動から学びながら、喜怒哀楽を共にし支えあって生活していくようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場、状況の変化を自分に置き換えながら、一緒に考え悩み喜び合いながら支えていけるよう、密な関係を築いている。	○	家族が県外に在住されている場合は、面会が思うようにできないので、今以上に密に連絡を取るようになっていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出した際の写真をアルバムにして届けたり、ほおずき新聞、生活の報告の手紙、面会の際は気を使わないで会話ができるよう工夫し、よい関係が築けていけるよう支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのお店、美容室、行き慣れた所への外出、帰省に付き添うなど支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の配膳、下膳、片付けなど行っていただいたり、外出の際は車椅子を押したり、着替えの手伝いや励ましの言葉かけなどお互いが助け合い支え合いながら生活している。	○	入居者同士で気の合わない人がいる場合は、職員が間に入り、孤立しないように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節の挨拶状を送ったり、命日訪問、お墓参りなど行い、関係の継続に努めている。	○	他事業所へ移られた利用者などの訪問を継続していき、今後も付き合いを大切にできるように努める。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合わせた生活、思いや意向の把握に努め、希望があれば実行し、実現に向けた話し合いをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者との会話、入居者同士の会話の中で、生活歴や性格の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	状況の変化、日常生活行動低下などが見られた時は、記録に残し全ての職員が把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族との情報交換、本人の会話や訴えを聞きながら介護計画を作成している。	○	介護計画の必要性を職員一人ひとりが把握し、職員からの意見やアイデアを反映した介護計画を作成していけるよう努める。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにモニタリングを実施し見直しを行なうとともに、状況変化があればその都度アセスメントをし、介護計画作成の変更を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録やケース記録を作成し、日々の様子やケアの実践、結果など情報を共有できるようにして、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その都度要望を聞き、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事業所が住所の入居者は、民生委員の訪問がある。入居者全員が地域自主防災の地域住民登録していて、災害があった場合地域住民の協力が得られるようになっている。また、事業所が避難場所となっているので、消防や警察の支援も得られる。	○	地域の小・中学校に協力を働きかけていくようにする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	体制のみで実例がない。	○	今後は本人の意向や必要に応じて、他のサービスの活用支援ができるようにしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での意見交換のみになっている。	○	必要性に応じて協働できるようにしていく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や入居者一人ひとりのかかりつけ医と、いつでも連絡が取れ適切な医療が受けられるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の定期的な往診時に気がついたこと、日々の状況を報告し、専門医から助言、アドバイス、診療が受けられるようにしている。また、往診以外でもいつでも連絡し相談できる。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	緊急時は看護職員に対応してもらえるよう、何時でも連絡が取れるようにしており、日常の健康管理などの支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時は毎日病院へ行き、状況の把握、洗濯や困りごとへの支援、家族への連絡など行っている。また、早期退院できるように情報交換や相談に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、医師と一番よい方法を話し合い、全員で方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、医師と話し合い、事業所でできる支援、できない支援を見極めながらかかりつけ医とともに取り組んでいる。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージ防止として、家族やケア関係者と協力し情報交換している。また、慣れ親しんだ物を居室に置いたり、写真を飾るなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ、浴室への入室時、声かけやノックを行いプライバシーの確保に努めている。	○ 職員一人ひとりが「自分がされて嫌なことはやらない」ということを頭に入れ、誇りやプライバシーを損ねるような対応をしないよう徹底するように努めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出かけたいたい所や外食事のメニュー決定、日常では衣類の選択など自己決定の支援に努めている。	○ 思いや希望を表現し難い方でも、会話などの中での表情や言葉、情報などから自己決定の支援をしていくようにする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースで過ごす時間もあるが、職員の都合が優先してしまう時がある。	○ 起床や就寝時間など、少しずつでも一人ひとりのペースに合わせてくれるよう努めていくようにしたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む理容、美容室(パーマ・毛染め)の定期的利用や、衣服もその人らしい服装を用意しおしゃれを支援している。	○ 理容・美容を希望しない入居者は、職員やボランティアなどで支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け、食器洗いなど職員と一緒にしない、皆が同じテーブルで食事している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつを工夫し、喫茶店や甘味屋の利用、お酒など飲んだりして日常的に楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導行なうようにしている。日中はリハビリパンツを使用してトイレ介助を行い、夜間におむつを使用してもトイレ誘導、ポータブルトイレ介助などを行い気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて、毎日入浴できるようにしている。	○	夜間入浴の取り組みや温泉などの、入浴への取り組みの支援をしていくように検討していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の作業、体操、散歩、ドライブなどで居眠りを減らすようにしたり、体調を考慮して昼寝の支援をしたり、専門医の処方薬など、安眠できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の家事や花野菜の栽培、縫い物など一人ひとりの力を活かした役割りや、映画やお芝居、個々の外食、買物などの楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力に応じて家族の了解のもと、お金を所持したり使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や訴えを聞き、外出などの支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	会話の中から希望や思いを引き出し、外出計画を立てて個別あるいは全員で外出する機会をつくり、支援している。	○	旅行、故郷訪問、夏祭り、法事など、家族の協力があり実現できている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いてもらったり、自ら電話できるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に面会ができるよう心がけ、居室でアルバムなど見ていただきながら、ゆっくりと話ができるよう工夫している。	○	行事や旅行などへの家族の参加を実現していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束委員会を開催し、話し合いの場をつくり、正しく理解してケアに取り組んでいる。	○	全職員が具体的な行為を正しく理解しているとはいえないため、勉強会や研修を重ね取り組んでいくようにする。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が認識しており、日中天気の良い日など玄関は開け放し、各階へのドアや居室も鍵はかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見守りやすい場所で、プライバシーに配慮しながら日中、夜間通して所在や様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや刃物などは日中は使用するも、夜間は薬品と共に鍵付き保管庫に収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成していて、一人ひとりの状態に応じた事故防止には介護計画の中に織り込み、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防による救急救命講習を実施している。マニュアルはあるが全ての職員が熟知はできていない。	○	救急救命講習の回数増加や勉強会などで、職員の質の向上に努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し年2回防災訓練を実施している。事業所が地区自主防災会の公助避難場所となっている。また、入居者の名簿を提出しており、地域の人々の協力を得られる体制になっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについて事前に家族に説明している。職員間での話し合いも行なっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色や表情、言動、身体の観察など、早期発見できるように努め、記録に残して全職員に伝わるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書の確認、かかりつけ医からの説明などで目的や副作用、用法や用量について把握に努めている。服薬の支援は看護職員が行い、症状の変化などかかりつけ医に報告するようにしている。	○	新たな服薬チェック表を作成し、工夫をして全ての職員が理解するよう努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事には必ず汁物をつけ、寒天を利用したデザートなどの食事メニューの工夫、散歩やリハビリなど運動不足にならないよう取り組んでいる。	○	対応していても、下剤の使用は必要な状態。水分摂取にもなる健康茶など利用しながら、予防と対応のため取り組んでいく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔状態に応じた、毎食後の口腔ケアを実施している。義歯は就寝前に洗浄液に浸け清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食後に記録し、入浴後や夜間の水分補給、起床後のティータイムなど、栄養摂取や水分確保の支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを見たり、研修の資料などを見やすいところに貼っている。入居者、職員ともに、手洗い・うがいの実施、インフルエンザ予防接種を受けて予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は食器洗い乾燥機を使用している。塩素系洗剤で台所周りや冷蔵庫内は拭いて、ふきんやまな板などは浸け置きし、コップ類は消毒している。食材は日付を記入して収納し安全な食材管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに花壇を作って季節ごとに入居者と植え替えし、ベンチを置き眺められるようにしている。掃除をしたりして玄関も開放している。	○	近隣の人が花壇の花を「きれいに咲いてますね」と声かけてくれるようになり、掃除の際も挨拶してくれる。まだ玄関先での立ち話程度なので、気軽に出入りしていただけるよう工夫していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンなので、常に会話、見守りができる。季節の折り紙や貼り絵、カレンダーを入居者と一緒に作成し、壁に貼るようにしている。音楽をかけ、台所からの匂いや音など、くつろげる空間となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は全員が居間に集まって過ごされるため、一人になれる時間がない。その中でも、昼寝など体調を見ながら居室で休んでもらうよう支援している。	○	入居者一人ひとりに合った場所へ外出するよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた物、使い慣れた物、馴染みの物を活かす工夫をしている。写真、手作りカレンダーなど居室に貼り、居心地よい生活を送れるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開放したり、空調機能を利用したりして換気に努め、温度調節は外気温差がないようにし、衣類調節やピンポイントでの冷暖房など、入居者の状況に応じて調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、車椅子用トイレなど、身体機能を活かした環境で、福祉用具も各種準備活用し、自立した生活が送れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室はネームプレートを下げ、混乱などを防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダではプランターで花や野菜を育て、入居者が水やりや植え替えを行ったり、洗濯物を干したりして活用している。	○	近隣に畑を借りて野菜を植え、管理、収穫など入居者と一緒に行なっている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方々に喜んでいただき、沢山の思い出をつくっていただけるように、今日はどこに出かけようか、何を食べに行きたいかなどと入居者と相談しながら考えることが日課となっています。「今こんな映画やってるよ」「〇日歌手が来るみたい」「割引券あるからここに食べに行こう」などと、普通の会話、普通の家族と同じように生活しています。

事業所では居眠りが多くても、外に出かけると車の中でもおしゃべりになったり、窓の外をずっと眺めていたりして生き生きしています。外に出かけ身体を動かし光に触れるためか、皆さん風邪を引かずお元気です。これからの季節は、夏祭りなど夜のイベントが沢山あるので、いろんな所へ出かけて行く予定です。